

# 鉄工所の常識が変わる！ 安全・清潔な職場づくりを通して活力のある企業へと変貌を遂げる

九州本部 プロジェクトマネージャー 加藤 正行

## 【事例の要約】

本事例は、鉄工業界に根付く3K職場という通念を打破し、安全・安心な職場、清潔な職場、効率的な職場づくりを目指した支援事例である。

業界では、ややもすると3K職場を当たり前とし、抜本的な改革への取り組みが遅れていた。そのため人材の確保や事業の承継に支障きたす恐れがあった。当社はこの課題に対し不退転の決意で全社を挙げて取り組んだことで、安全な職場はもとより強い現場力が出来上がった。現在は生産の効率化に着手しており、今も日々進化が続いている。

企業名 株式会社久留米鉄工  
業種 鉄骨工事業  
本社所在地 福岡県久留米市上津町2237  
資本金 20百万円  
設立 平成1年12月  
売上高 1784百万円（平成29年7月期）  
従業員 40人（正社員18人）

## 会社概要と中小機構との出会い

当社は53年前に創業し、平成元年に法人として設立された。福岡・山口県の地場大手建設会社と取引のある鉄骨建築材の製造、工事を営む企業である。ビルや大規模工場などで使用される大型の柱や梁の製造と組み付け工事に強みがあり地場建設会社にとってなくてはならない企業である。丁寧で確実な仕事は取引先でも高い評価を受けており、景気に左右されやすい業界の中、堅実な安定経営にある。

支援のきっかけは福岡県中小企業団体中央会より紹介を受けたことによる。当社の野田社長が工業組合福岡県鉄構工業会の理事長を務めていた関係で『5Sを中心とした活動を支援できる適切なところがないか』と中央会の職員に相談されたもの。野田社長は以前から5Sの重要性を従業員に訴えてきたが自社だけではなかなか進まない状況にあった。そこで、外部の支援をもらい、本格的に5S職場を作り上げたいとの思いであった。また鉄構工業会の大半の企業が未だ3K職場にあり、自社だけでなく、いつかは業界全体としてもこの状況を変えて行かなければと業界リーダーの立場としても強い思いを持たれていた。

支援に際して野田社長から当社の成功事例は自社だけのものとせず、業界全体に広め業界発展のために寄与したい旨ご提案頂いた。当機構としても業界



工場外観



工場内観

全体の変革に繋がり、大きな影響を持つテーマとして一緒に取り組むこととした。

### プロジェクトマネージャーの視点と経営課題の設定

職場には、過去に5Sに取り組んだ痕跡は一部見受けられるが、全体的には雑然としており、5Sを全員が習慣化している様子は感じられない。また、仕事の進捗や注意事項、危険ゾーンの明示など現場第一線の皆さんが確認できるものも十分にはない状況にあった。幸いこれまで重大な業務上災害は発生していないが危険な状態があちこちに散見されることから急ぎ活動を進めることとした。

これまでの取り組みが中途半端な形で終わっている原因は

- ① 全員参画になってないため各自が自分のこととして捉えてない。
- ② 組織的な取り組み体制が出来てない。
- ③ 活動を継続する仕組みがない。
- ④ 研修の場や情報もないことからどうやっていいかわからない。
- ⑤ 第一線の方々に状況を知らせる手段を持ってない。などが挙げられる。

このような状況からまずは『5Sと進捗の見える化』を中心に活動を進めることとした。

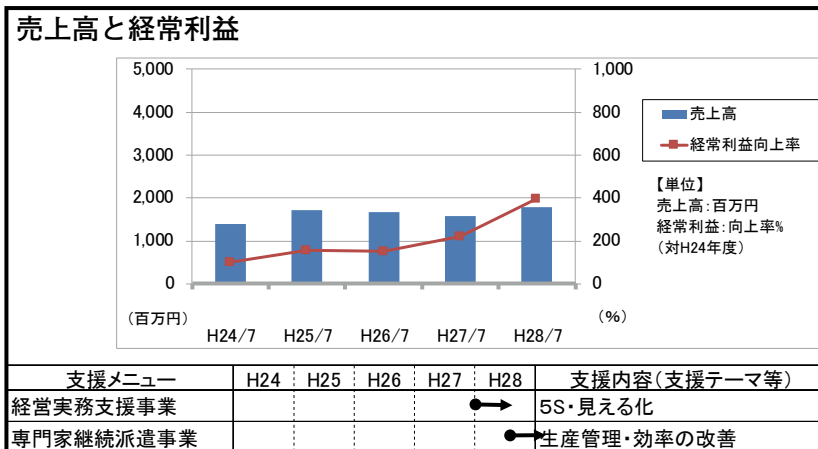


加藤 正行 九州本部  
プロジェクトマネージャー

支援に際しては、次期経営者となる専務を中心としたプロジェクト体制を組み、この活動を通して次期社長としてのリーダーシップの育成も目指すこととした。

対象は全職場とし、各職場の代表が必ず参画するよう全社を挙げて取り組む体制を組んだ。5S取り組みは、徹底することと、全員が参画することが重要。その為には活動がどのように進んでいるのか、他の人はどうしているのか、他の職場がどのような

### 【量的変化】



プロジェクトメンバーによる推進会議



中央掲示板



全員が熱心に聞き入るキックオフ

手段で進めているのかなどの疑問に応えられるように見える化することが重要で、そうすることで参画の意識が高まる。

今回の活動を全員の方々に見える化する工夫を進めるとともに、これに合わせ、日々の仕事の見える化、注意事項の見える化など職場内に掲示場を作り、表示するようにして行く。

### 支援内容と支援成果

代表職場を選定し、そこに対して全員で整理整頓を実践することで、早期に全員が手法を理解していった。これを全職場に横展開。ToDoリストを使い誰がいつまでにやるのかを明示するとともに、ビフォー&アフターで全員に内容をお知らせする。これを徹底して回すことで職場の雰囲気は見る見る変わっていき、職場の皆さんにも達成感と自信がわかってきた。

経営トップのサポートもあり、新たな通路の確保、壊れかけた設備の一掃、掲示板の製作、安全柵設置、トラマーク表示など、職場は完全に形を変えて行った。特に圧巻なのは、新たな通路の確保のためコンプレッサーや溶接電源装置を3メートル嵩上げし、職場が圧倒的に広く使えるようになったことである。同業者も取引先も見学に来ると必ず皆その変わり様に驚きの声を上げる。今や同業者の中でダントツの5S職場が完成した。活動を通してプロジェクトメンバーの成長は著しく、報告会では堂々の発表と次に向けての心強い宣言を頂いた。経営陣も機構メンバーも正に感動の場面であった。現在支援の第二弾として『生産計画の見える化と生産効率向上』の課題に取り組んでいる。

また、当社の活動成果を見学した複数の同業社が、既に同じ取り組みを開始している。当社の活動が業界へ大きな影響を与えつつあり、今後の活動も合わせ業界の成功モデルとなりつつあることは嬉しい限りである。



中二階にあげた電源装置



通路も階段も注意表示（ご安全に）



新品に蘇った溶接ロボット



## 経営者のことば

この度の弊社の活動に対する中小機構様の御支援に衷心より感謝申し上げます。

私達、鉄骨製造業という特異な職場環境の中で社員の皆さんが安心して安全に働ける職場を何とか確立したいと願っておりました。

今回の活動に対して御支援を頂き、社員一人ひとりの自覚と自立そして子供達、家族に誇れる職場づくりに取り組む様子は未だ道半ばではありますが、社員一人ひとりの成長と共に感動でありました。現在次の課題に対して御支援を頂いておりますが全員力を合わせて活力ある会社を目指してまいります。又、この様な取り組みで業界が発展していく事を願っております。有難う御座いました。



代表取締役社長  
野田 博文氏